

第1部 沖縄観光の現状と課題

(1)沖縄観光のこれまでの推移

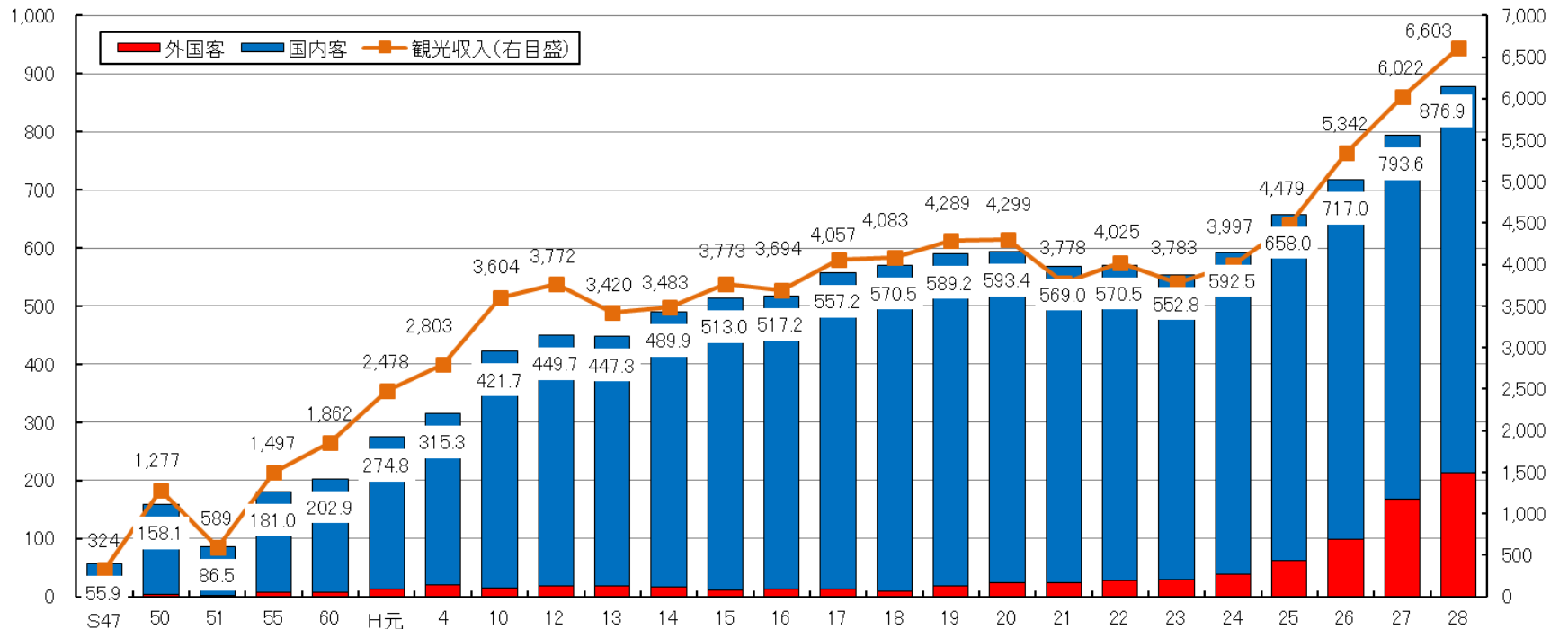
(入域観光客数)

・55万9千人(昭和47年度)→ 876万9千人(平成28年度 15. 7倍)

(観光収入)

・324億円(昭和47年度)→6, 603億円(平成28年度 20. 4倍)

入域観光客数及び観光収入の推移【年度】



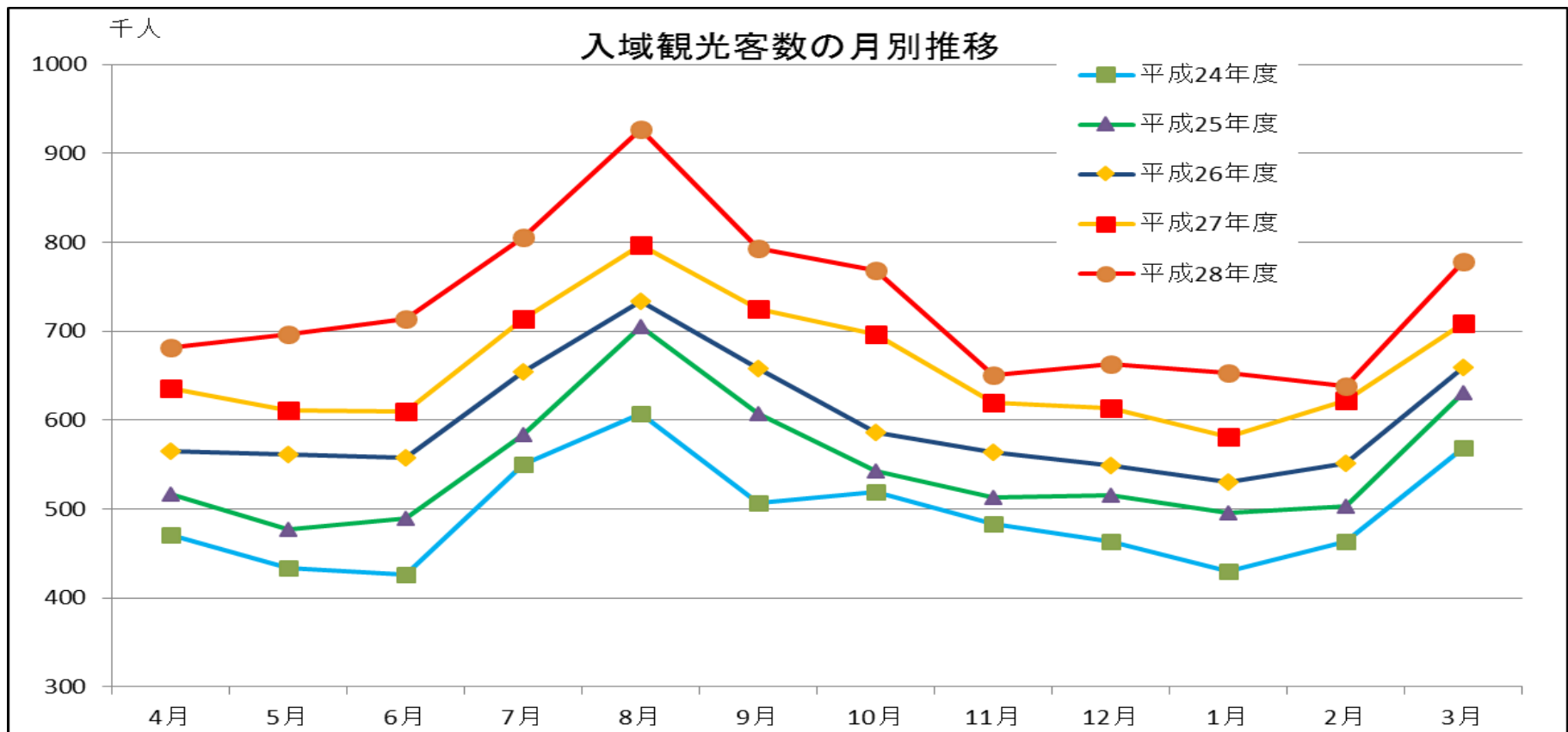
出所：沖縄県「観光要覧」、「平成28年度沖縄県入域観光客統計概況」、「平成28年度の観光収入について」

(2) 平成28年度 沖縄観光の動向①(概況)

○入域観光客数 876万9,200人(対前年度比83万2,900人、10.5%増)
⇒4年連続で国内客・外国客ともに過去最高を更新、外国人客は、初の200万人台

(主な要因)

- ・官民あがてのプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図ったこと
- ・国内航空路線の拡充
- ・海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数増 等



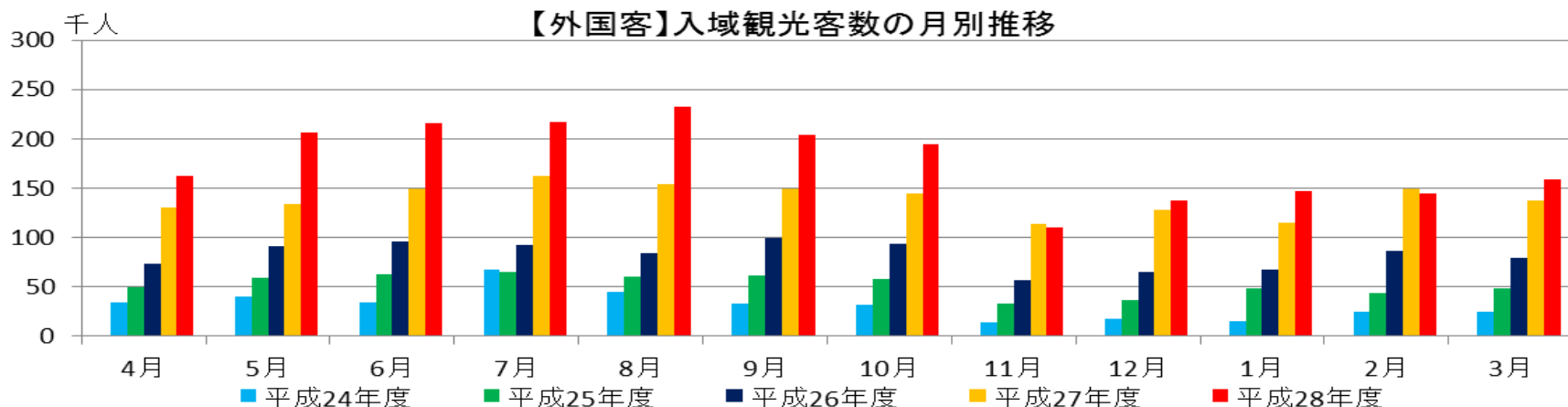
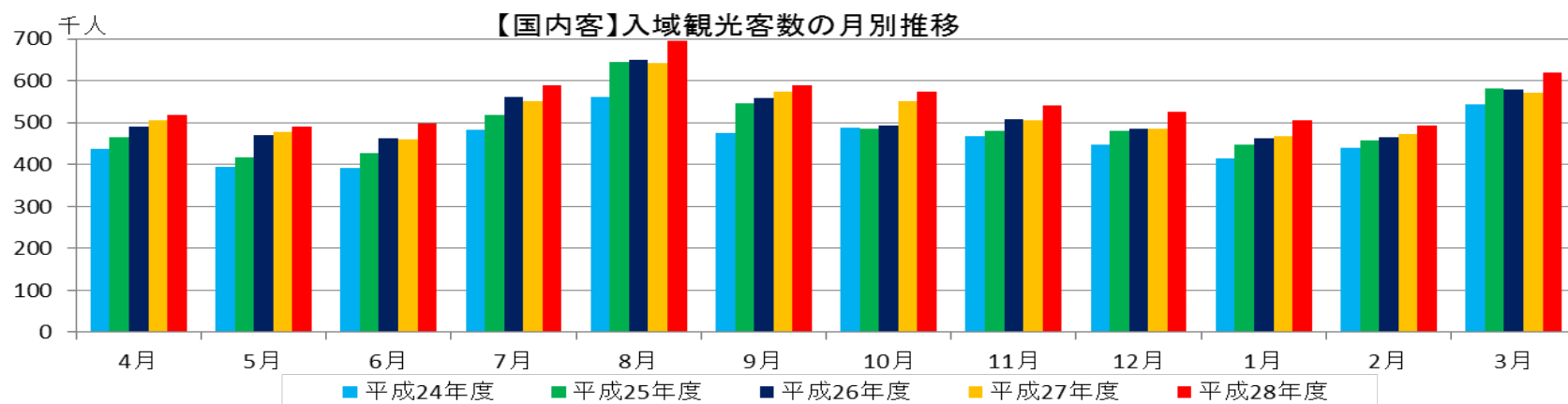
(2)平成28年度 沖縄観光の動向②(概況)

○国内客は、664万100人(対前年度比37万4,100人、6.0%増) ⇒過去最高

(増要因) 前年と比べ台風の影響が少なかったこと、景気回復基調が継続したこと等

○外国客は、212万9,100人(対前年度比45万8,800人、27.5%増) ⇒過去最高

(増要因) 訪日旅行人気の継続、沖縄発着航空路線の拡充、クルーズ船の寄港回数増



(2) 平成28年度 沖縄観光の動向③(国籍・地域別)

○入域観光客数は、台湾、韓国、中国本土、香港の順に多く、いずれも過去最高。

※ 韓国と中国本土で順位が入れ替わり。

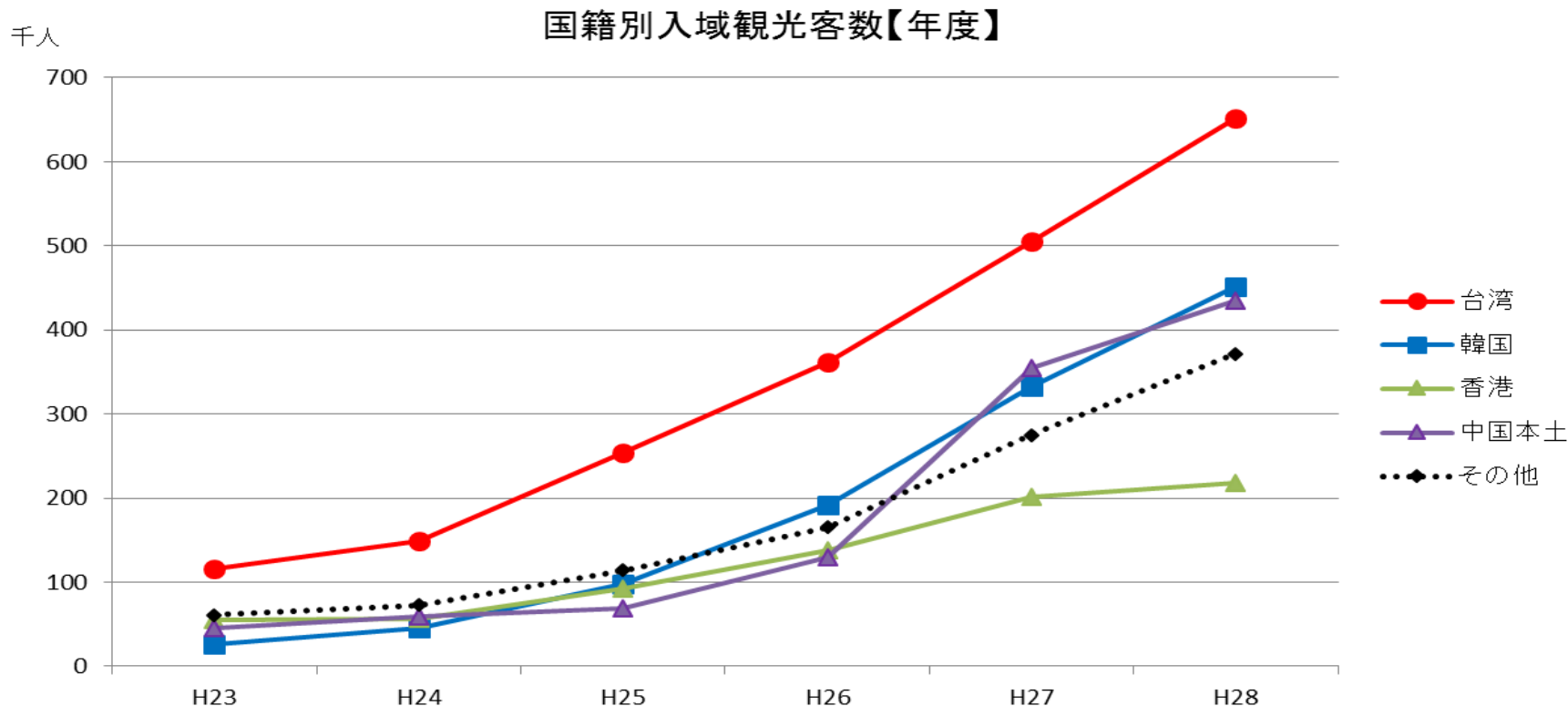
(増要因)

〈台湾〉 台北-那覇路線の新規就航(バニラエア)、LCCの増便、クルーズ船の寄港回数増

〈韓国〉 ソウル-那覇路線の新規就航(大韓航空)

〈中国本土〉 南京-那覇路線の新規就航(上海吉祥航空)、クルーズ船の寄港回数増

〈香港〉 香港-石垣路線の新規就航(香港エクスプレス)



(2) 平成28年度 沖縄観光の動向④（観光収入）

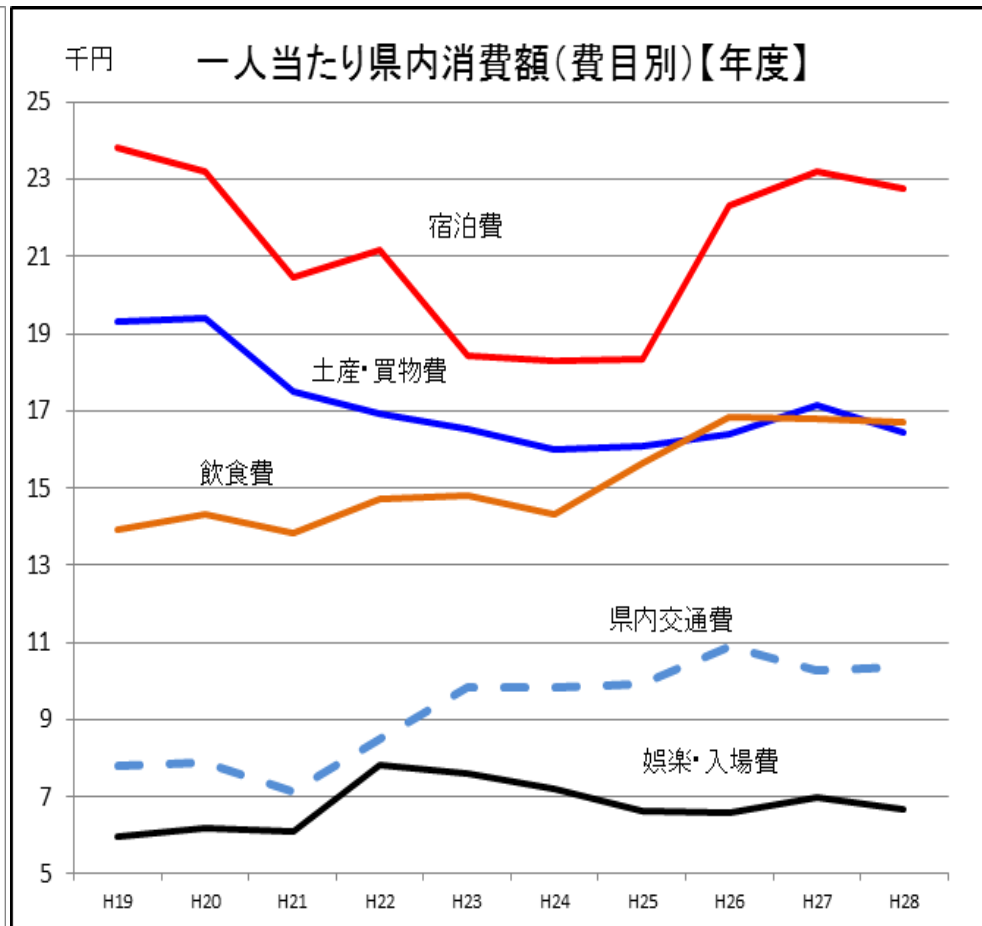
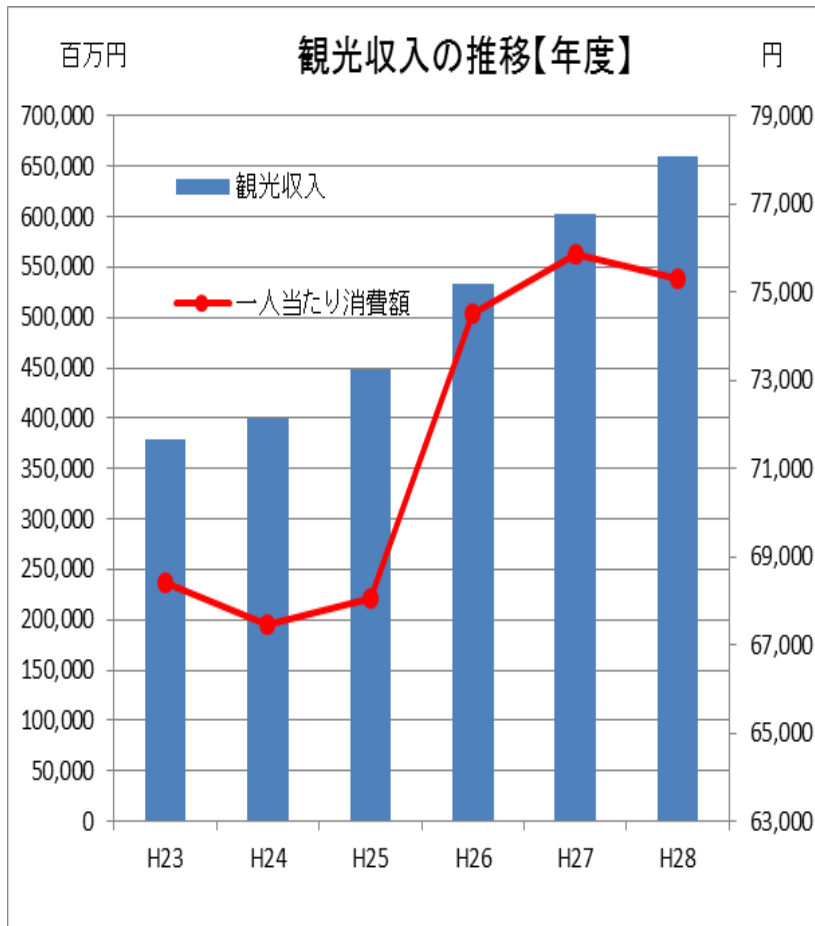
○観光収入 6,602億9,400万円（対前年度比580億8,000万円、9.6%増）

⇒4年連続で過去最高

○観光客一人当たり県内消費額 75,297円（対前年度比584円、0.8%減）

（減要因）

- ・消費単価の低い海路からの外国人客数の大幅増等
- ・「宿泊費」1.9%減、「土産・買物費」4.2%減、「娯楽・入場費」4.6%減



(2)平成28年度 沖縄観光の動向⑤

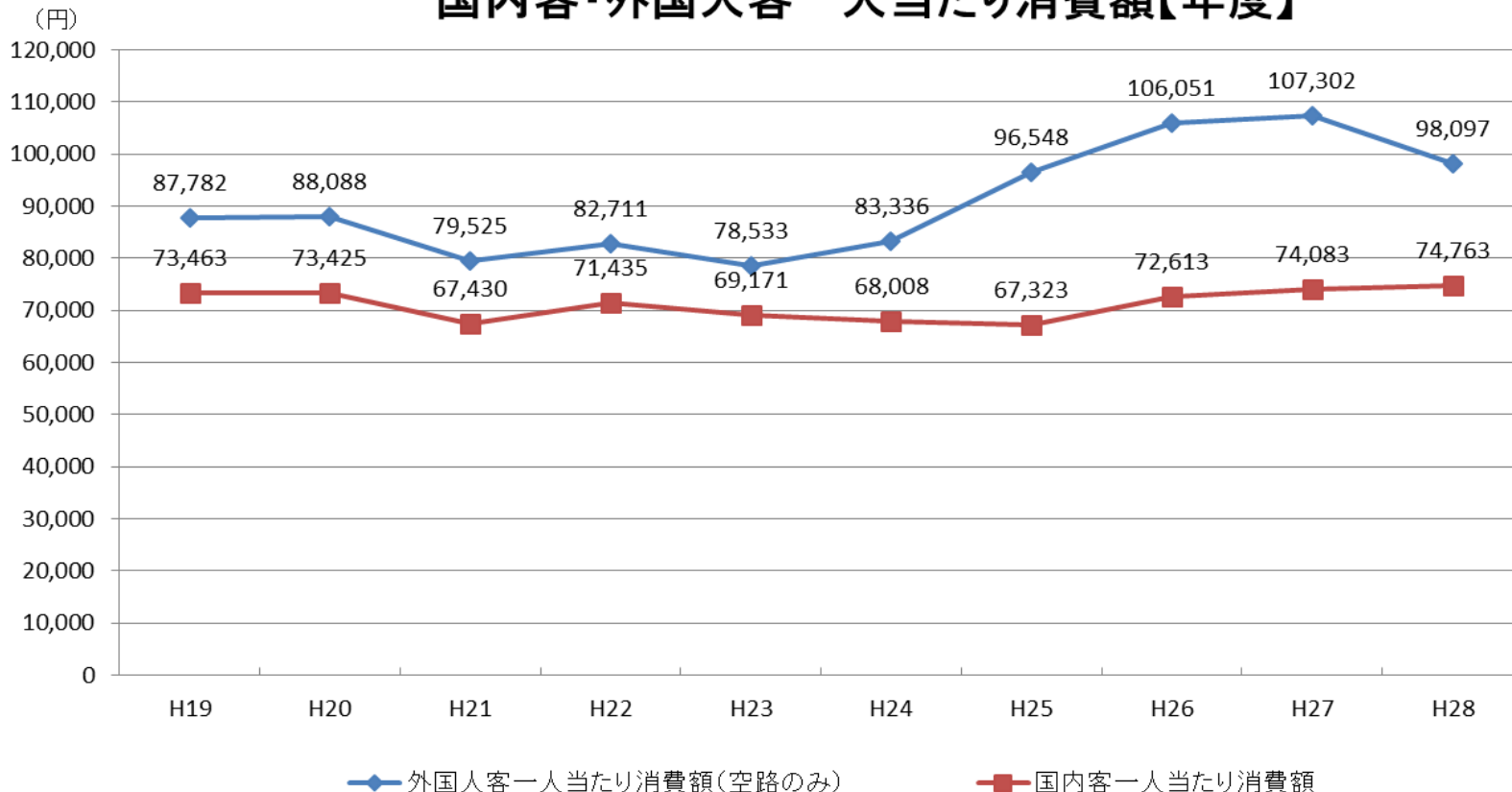
○国内客一人当たりの消費額 74,763円(前年度比680円、0.9%増)

⇒3年連続で7万円台

○外国人客一人当たりの消費額(空路) 98,097円(前年度比9,205円、8.6%減)

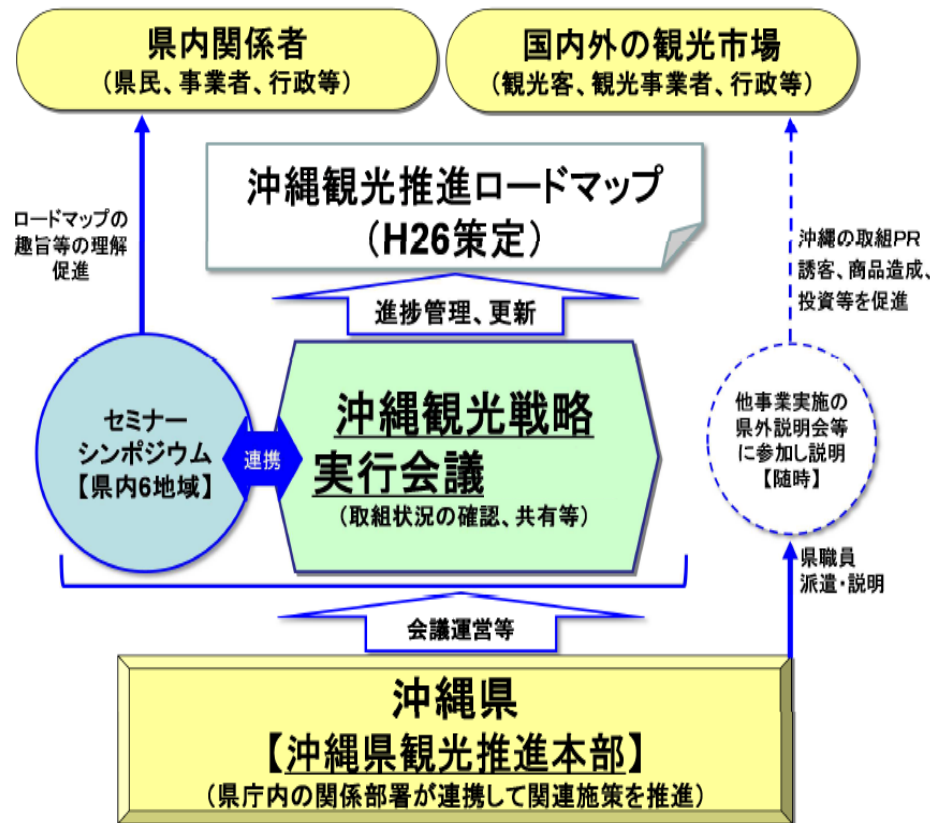
⇒国内客と比較して2万円余り高く、経済効果大

国内客・外国人客一人当たり消費額【年度】

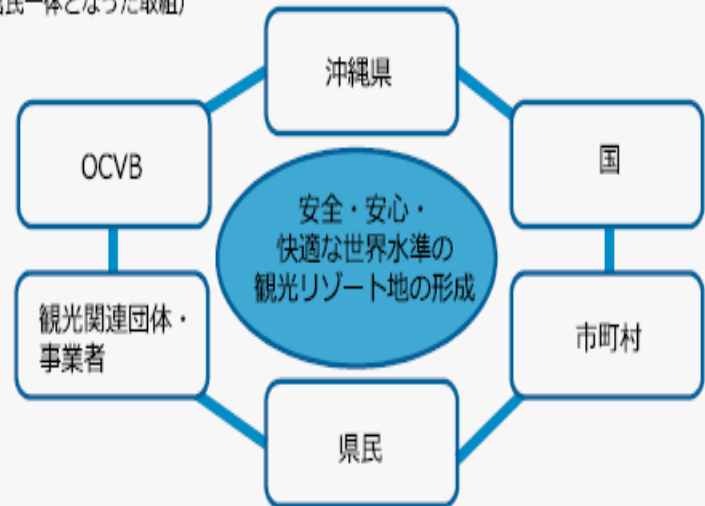


(2)平成28年度 沖縄観光の動向⑥

- 「沖縄観光推進ロードマップ」(平成27年3月沖縄県策定)
 - ・目的: 目標の達成を目指し、官民一体となって中長期的、段階的に誘客及び受入体制整備等の観光振興施策を推進すること
 - ・平成33年度目標: 観光収入1.1兆円、入域観光客数1,200万(沖縄県観光振興基本計画)
- 「沖縄県観光危機管理基本計画」(平成27年3月沖縄県策定)
 - ・目的: 観光産業に負の影響を与える台風、地震、津波、航空機・船舶事故、感染症等の観光危機に関し、観光危機管理の基本的な対応等を定め、観光客の安全・安心が守られる観光地の形成を図ること



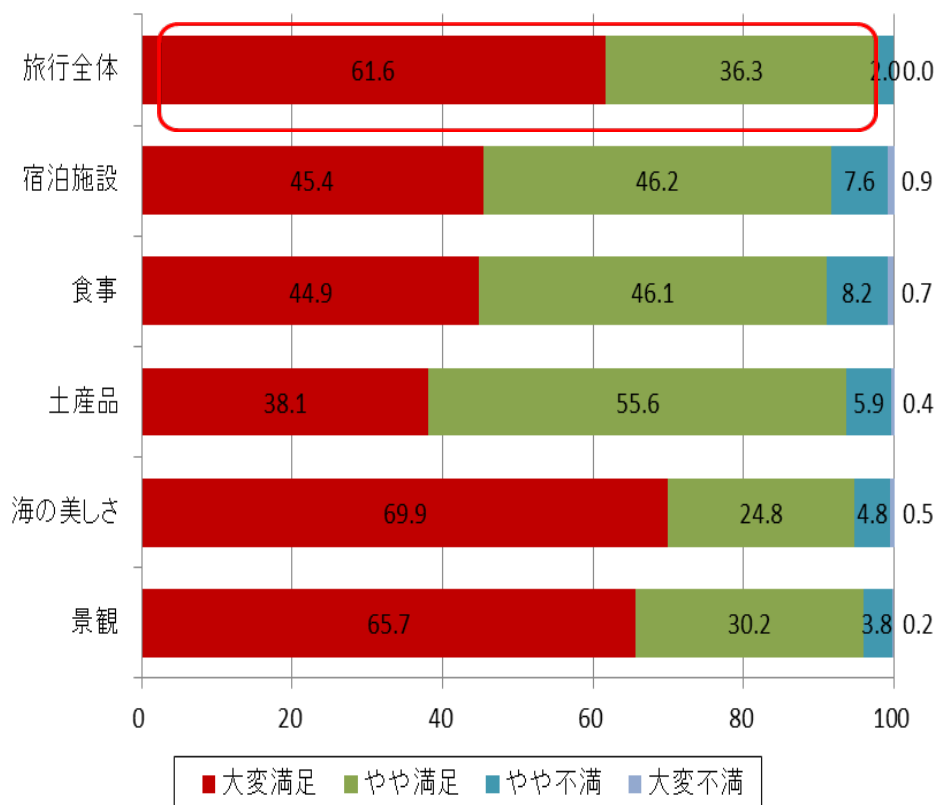
- 【観光危機管理対策】
- 〈主な取組〉
- ① 平常時の減災対策
 - ② 観光危機発生時における観光客への情報発信、避難誘導・安全確保、帰宅困難者対策等の観光危機管理対策
 - ③ 観光危機後の風評被害対策、観光産業の早期復興・事業継続支援等の対策
- (官民一体となった取組)



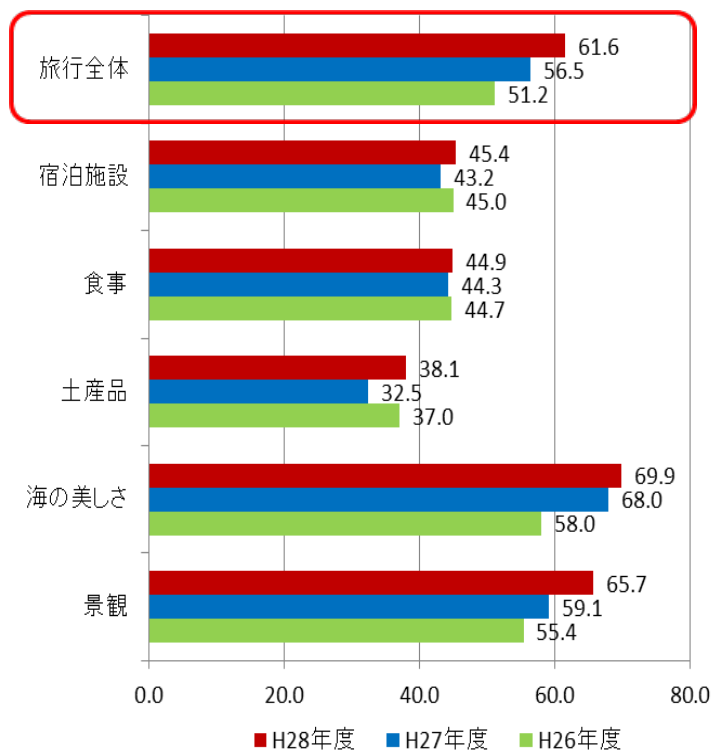
(3)平成28年度 国内観光客の動向(満足度)

- ・「旅行全体」の満足度 → 「大変満足」、「やや満足」を合わせると97%超
- ・個別項目 → 「海的美しさ」で「大変満足」の比率が最も高く、「土産品」は低い。
- ・平成26年度と27年度比較 → 全ての項目において満足度向上

沖縄観光の満足度(国内客)

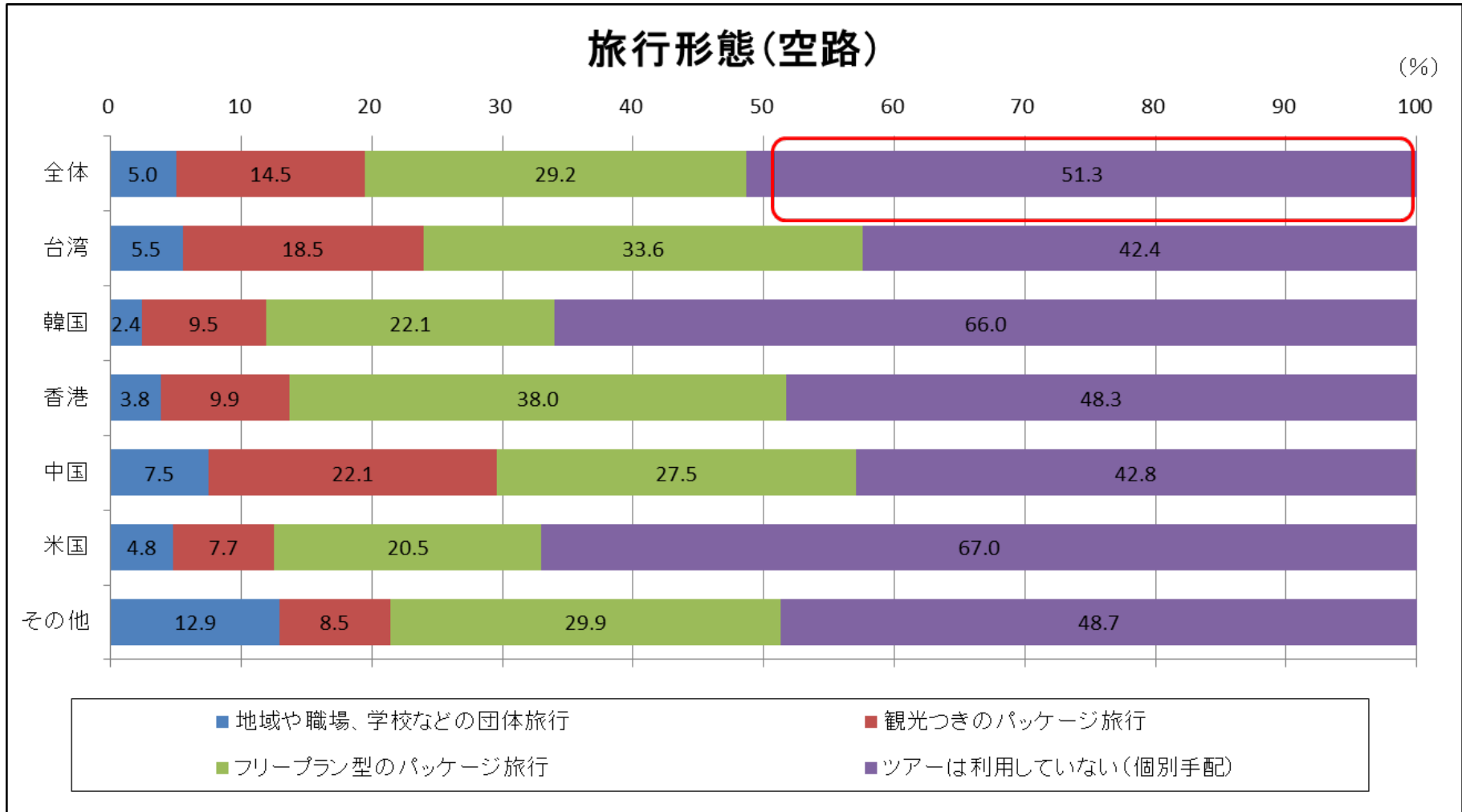


沖縄観光の満足度(経年変化)
(「大変満足」と回答した比率)



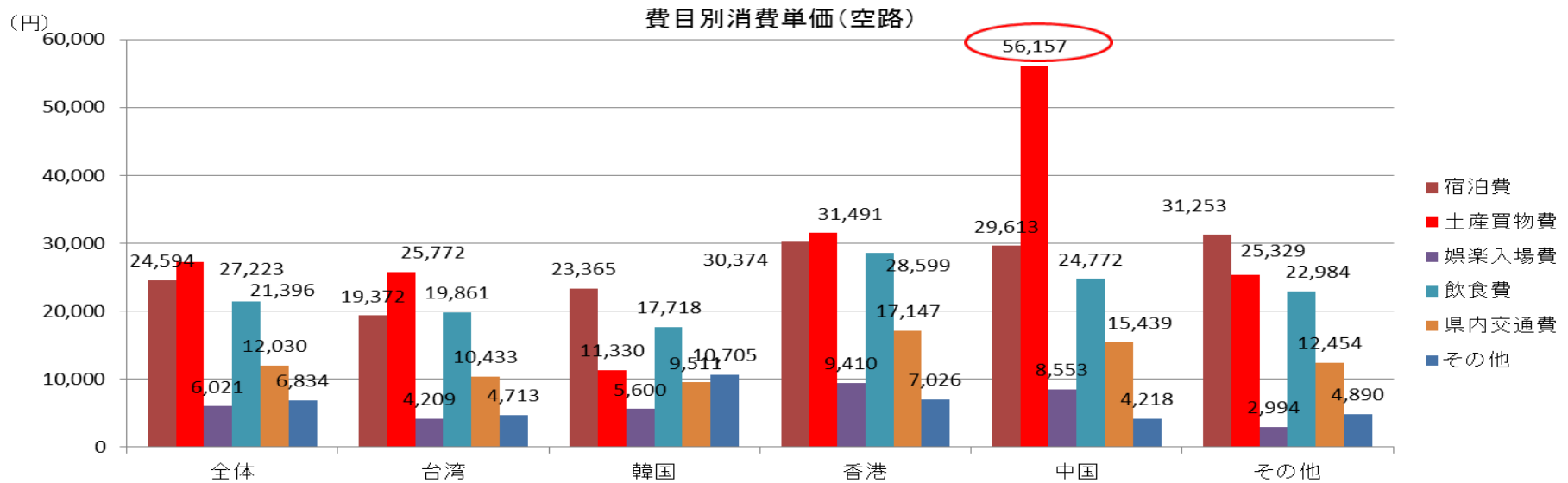
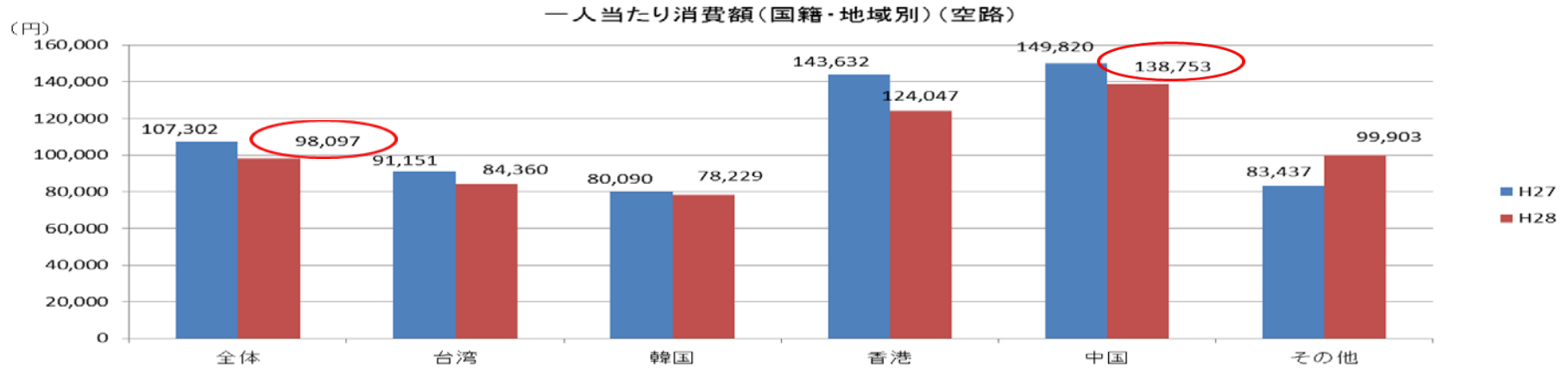
(4)平成28年度 外国人観光客の動向(空路)①(旅行形態)

- ・個別手配(51.3 %)、フリープラン型のパッケージ旅行(29.2%)が多い。
- ・米国(67.0%)、韓国(66.0%)、香港(48.3%)で個別手配の割合が高い。



(4)平成28年度 外国人観光客の動向(空路)②(消費額(国籍・地域別))

- ・全体の消費単価 98,097円(前年度比9,205円、8.6%減)
※中国人観光客の消費単価が最も高く、全体の消費単価を押し上げている。
- ・費目別 中国人観光客の「土産買物費」が高めの傾向



(5) 沖縄観光の課題等

① 滞在日数の長期化

② 一人当たりの平均消費額の向上

③ 急増する外国人観光客の満足度の向上

・「交通機関」、「案内標識」、「外国語対応能力」への満足度の向上

④ 観光スタイルの変化、目的の多様化等への対応

・観光客の個人旅行へのシフト

⑤ 交通事情

第5次沖縄県観光振興基本計画の数値目標フレーム等

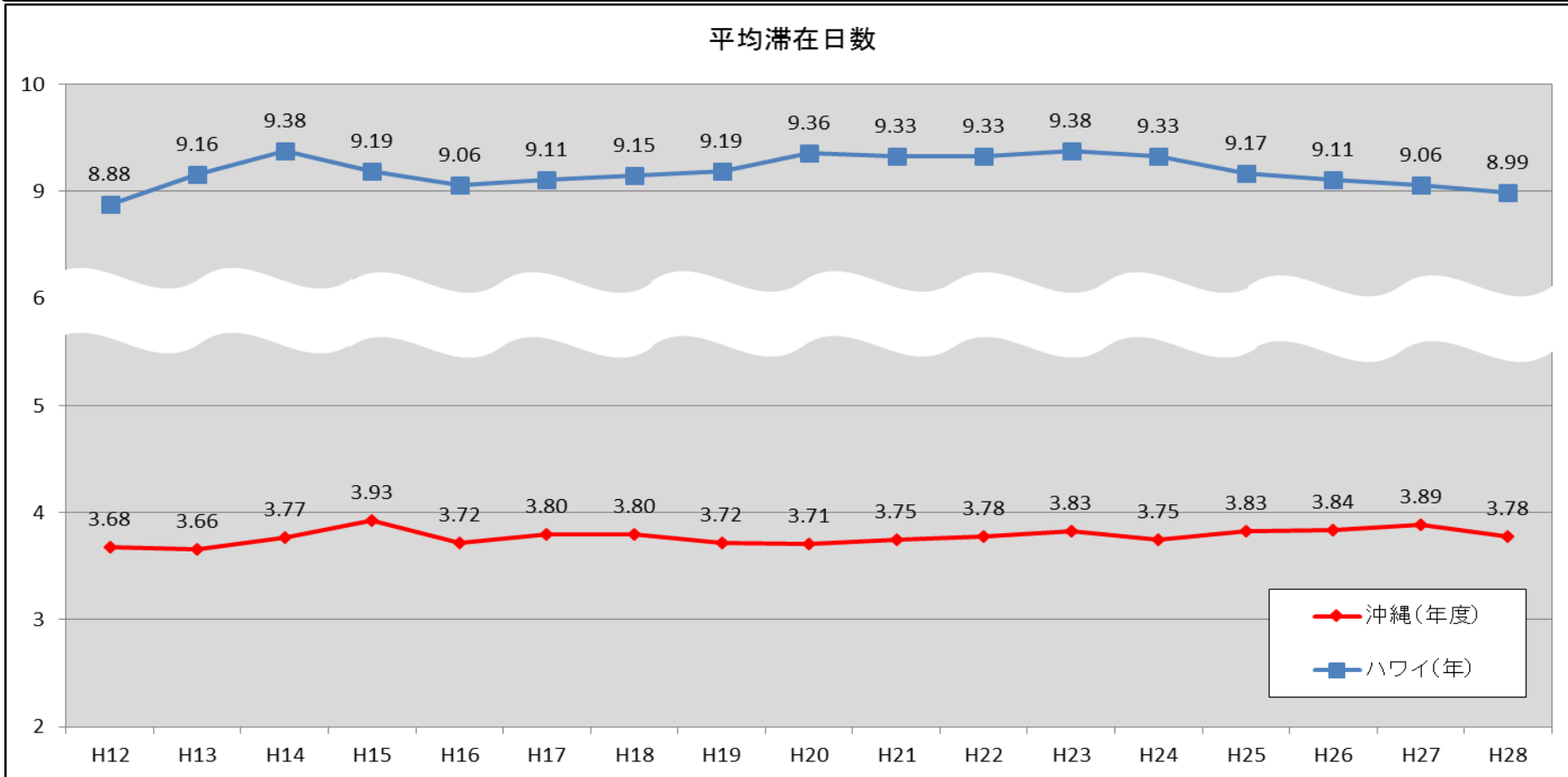
数値目標のフレーム

- (1) 観光収入： 1. 1兆円
- (2) 観光客一人当たり消費額： 93, 000円
- (3) 平均滞在日数： 4. 5日
- (4) 人泊数： 4, 200万人泊(うち国内客3, 200万人泊、外国空路客1, 000万人泊)
- (5) 入域観光客数： 1, 200万人(うち国内客800万人、外国客400万人)

観光振興の最大目標である「観光収入」は、「一人当たり消費額」×「観光客数」で算出されることから、一人当たり消費額と観光客数の両方を増加させることが政策課題

①滞在日数

平均滞在日数(国内客のみ)は、平成16年度以降は3.8日前後で推移



観光先進地であるハワイと比較した場合、半分以下(日本人に限っても約6割)の水準に留まっている。

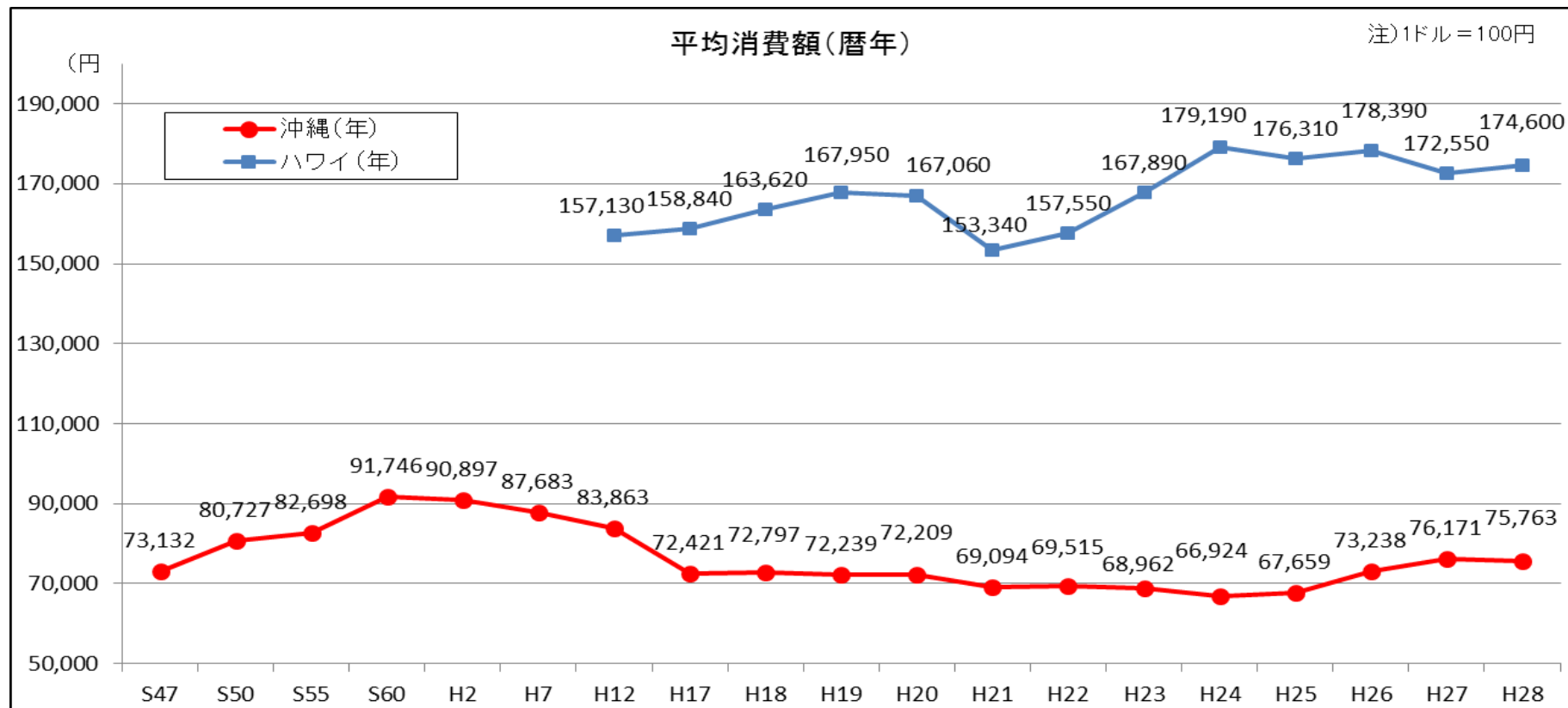
沖 縄 3.78日(平成28年度、国内客のみ)

ハワイ 8.99日(平成28年、うち日本人5.86日)

(注)沖縄県「観光要覧」、「平成28年度の観光収入について」、ハワイ州産業経済開発観光局資料に基づき、沖縄総合事務局作成

②一人当たりの平均消費額

- ・昭和60年の91,746円をピークに長期下落傾向が続いていたが、平成26年以降は7万円台で推移し、平成28年は75,763円。



ハワイと比較した場合、おおよそ半分程度の水準に留まっている。(1ドル=100円換算)

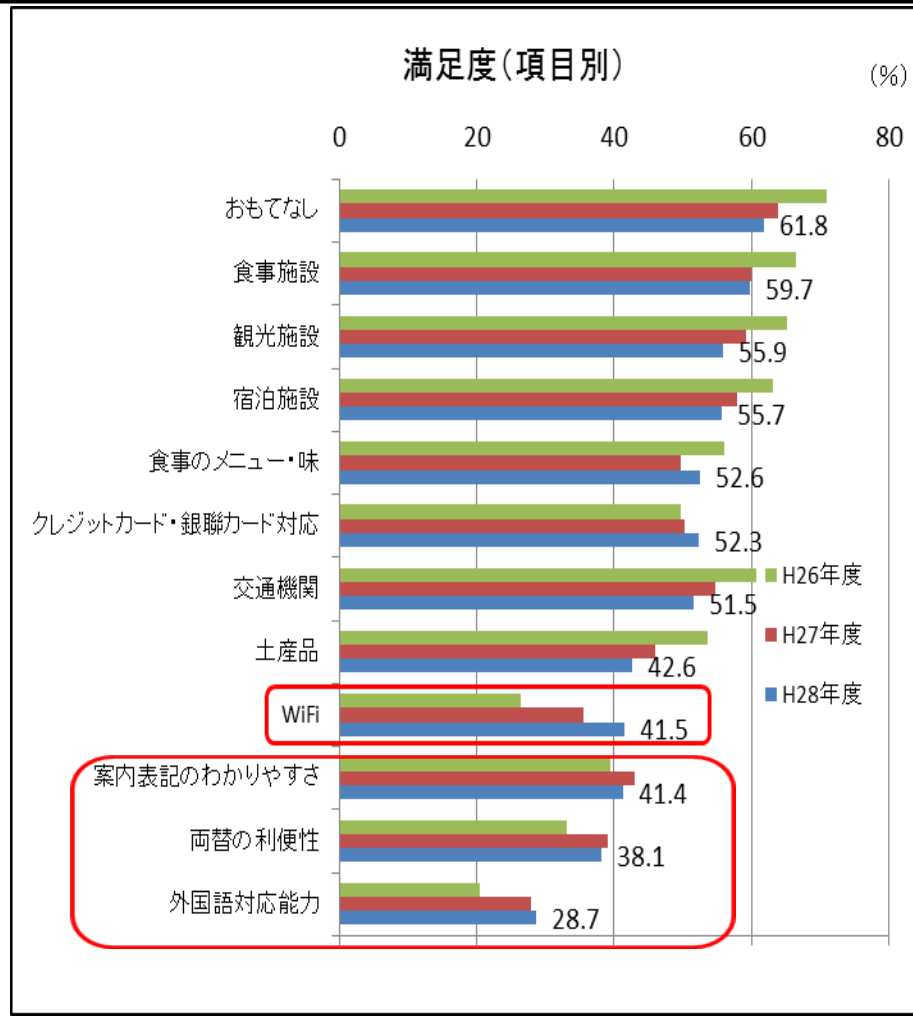
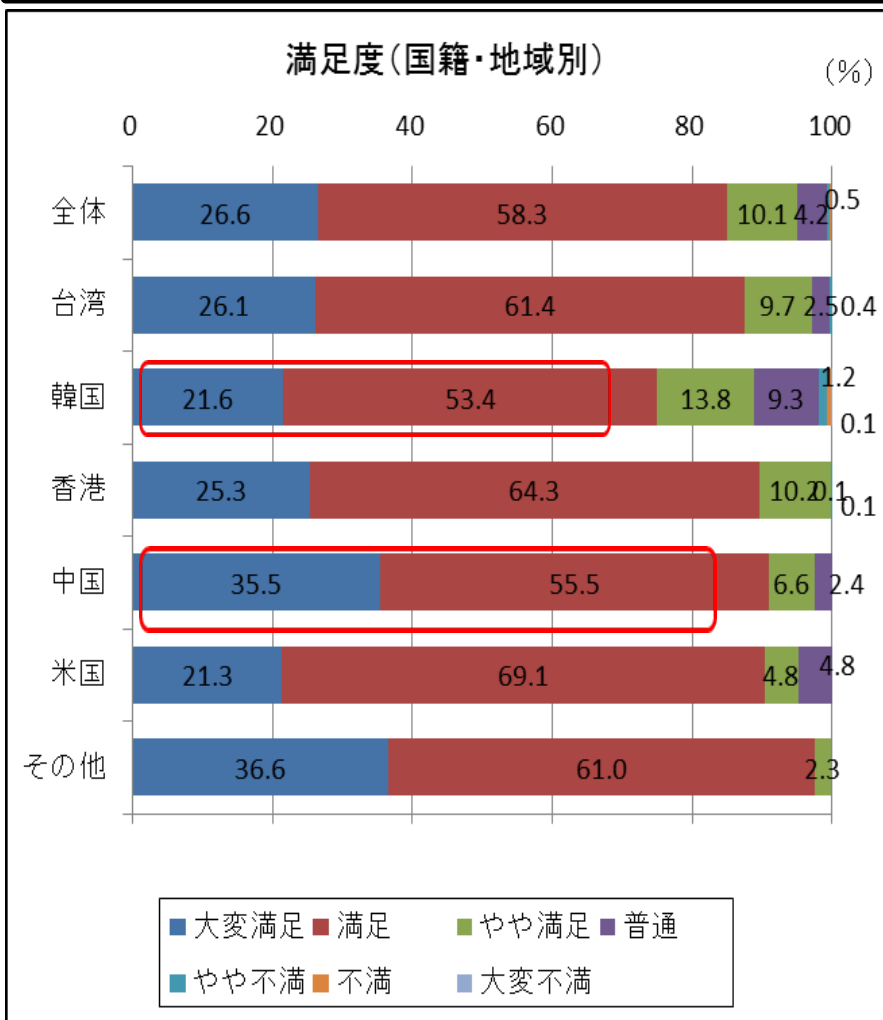
沖縄 75,763円(平成28年)

ハワイ 174,600円(1,746ドル)(平成28年)

うち日本人 141,020円

③外国人観光客の満足度について(平成28年度、空路)

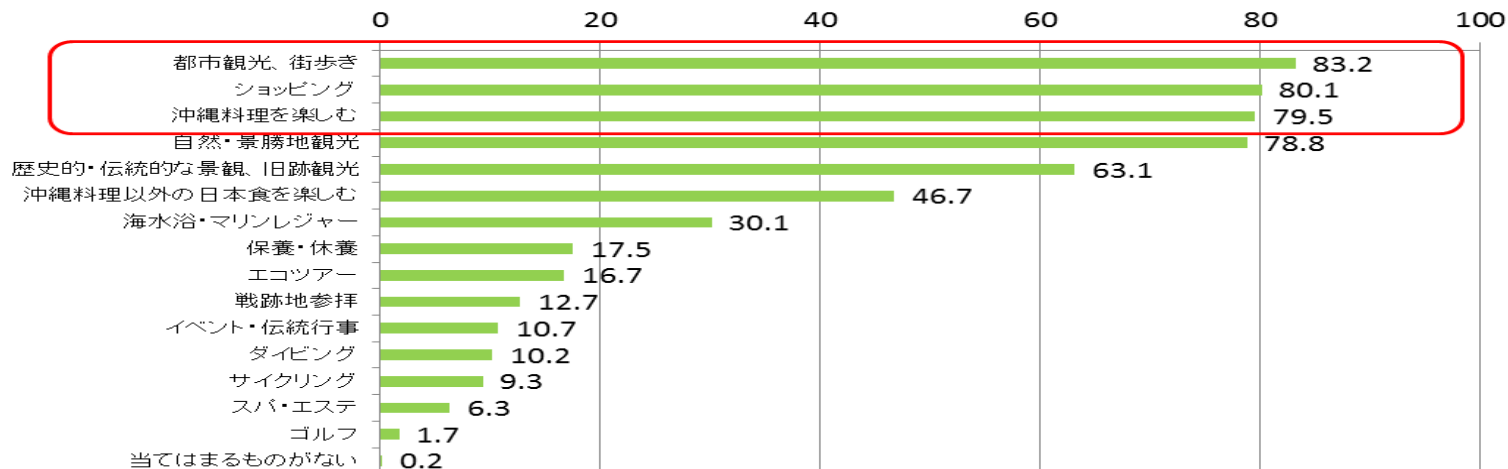
- ・台湾、香港、中国、米国の満足度(大変満足～やや満足)が95%以上と高いが、韓国が88.8%とやや低い。
- ・項目別にみると、「おもてなし」に対する満足度が最も高い。「外国語対応能力」、「案内表記のわかりやすさ」等の満足度が低い。「WiFi」は、改善傾向にある。



○「外国人観光客の沖縄での活動」について(平成28年度、空路)

- ・全体では「都市観光、街歩き」が83.2%で最も多く、「ショッピング」、「沖縄料理を楽しむ」、「自然・景勝地観光」、「歴史的・伝統的な景観、旧跡観光」と続いている。
- ・国籍・地域別では、いずれも「ショッピング」の選択率が8割前後となっている。

図表 1-18 活動(空路)(複数回答)

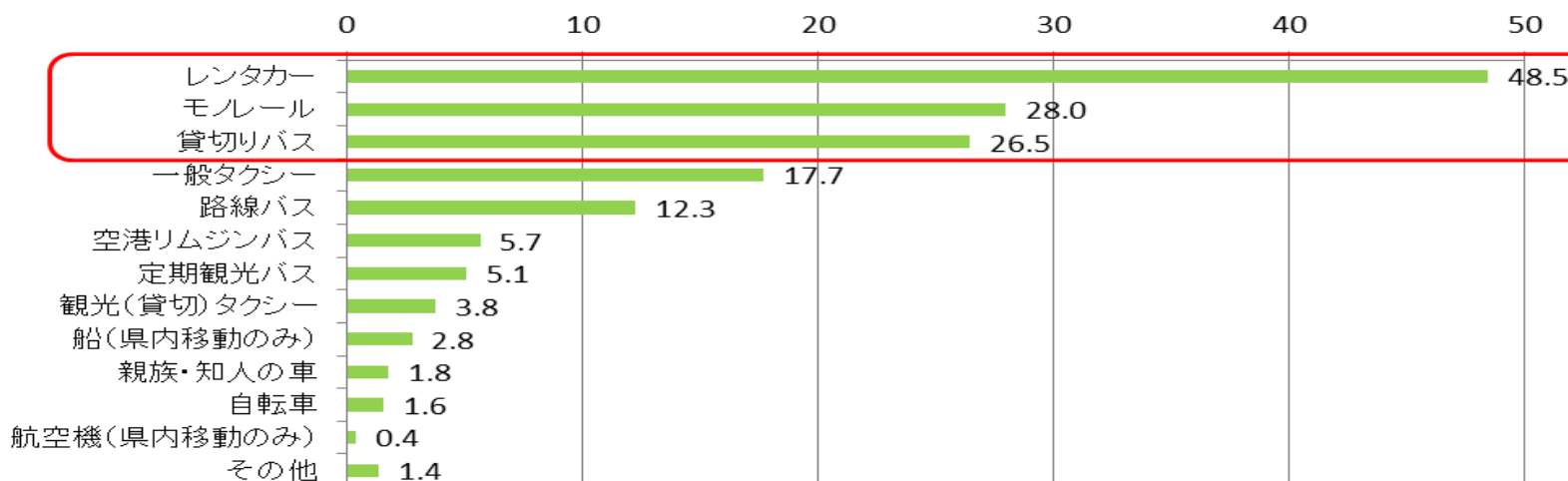


	全体	台湾	中国	韓国	香港	米国	(%) その他
都市観光、街歩き	83.2	88.7	75.4	80.2	90.5	77.3	75.6
ショッピング	80.1	82.5	79.1	75.5	82.0	83.2	91.0
沖縄料理を楽しむ	79.5	84.3	80.7	68.6	86.3	88.0	93.5
自然・景勝地観光	78.8	79.9	78.5	75.0	83.1	56.0	92.4
歴史的・伝統的な景観、旧	63.1	71.0	66.1	50.7	66.1	78.5	70.1
沖縄料理以外の日本食を	46.7	47.8	40.8	40.5	60.3	35.6	66.2
海水浴・マリンスポーツ	30.1	21.7	37.1	36.5	35.4	21.1	5.1
保養・休養	17.5	8.2	9.7	35.7	10.5	0.0	13.0
エコツアー	16.7	28.0	9.3	5.1	26.4	9.6	19.4
戦跡地参拝	12.7	24.0	6.9	2.5	16.5	32.0	10.5
イベント・伝統行事	10.7	17.4	6.5	5.8	13.8	14.4	5.1
ダイビング	10.2	10.3	13.6	7.2	13.9	10.3	6.5
サイクリング	9.3	10.3	2.3	3.0	29.3	4.8	14.4
スパ・エステ	6.3	4.2	3.9	10.8	5.0	0.0	5.1
ゴルフ	1.7	1.7	1.3	1.3	3.7	4.8	0.0
当てはまるものがない	0.2	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	2.5

○「外国人観光客の交通機関の利用」について(平成27年度、空路)

- ・全体では「レンタカー」が48.5%と最も多く、「モノレール」、「貸切りバス」と続いている。
- ・国籍・地域別では、香港(67.5%)、韓国(55.6%)、台湾(51.8%)で「レンタカー」の利用率が高い。
- ・中国は「貸切りバス(42.7%)」、「一般タクシー(37.6%)」の利用率が高い。

図表 1-15 交通機関(複数回答)



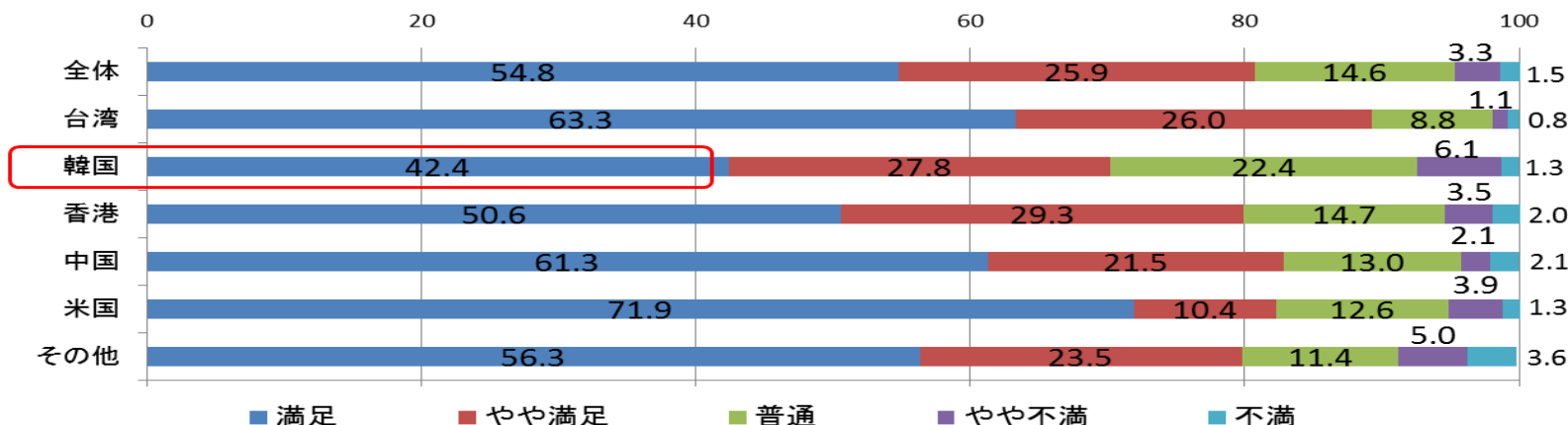
	全体	台湾	韓国	香港	中国	米国	その他	(%)
レンタカー	48.5	51.8	55.6	67.5	17.7	22.8	55.9	
モノレール	28.0	34.2	19.9	32.2	26.8	9.9	32.0	
貸切りバス	26.5	28.7	23.0	13.1	42.7	10.0	14.2	
一般タクシー	17.7	10.8	10.2	16.8	37.6	35.8	22.7	
路線バス	12.3	10.4	9.4	14.7	18.5	6.6	9.8	
空港リムジンバス	5.7	4.3	3.5	5.8	9.6	12.1	9.0	
定期観光バス	5.1	3.1	5.4	4.1	8.6	0.0	6.6	
観光(貸切)タクシー	3.8	1.9	1.0	3.3	10.8	9.7	4.2	
船(県内移動のみ)	2.8	1.7	0.5	1.8	8.6	1.0	3.1	
親族・知人の車	1.8	1.0	0.4	2.2	2.5	34.4	3.0	
自転車	1.6	1.2	0.6	1.2	3.5	7.6	1.6	
航空機(県内移動のみ)	0.4	0.2	0.3	0.3	1.1	2.2	0.0	
その他	1.4	0.6	1.5	0.8	2.2	8.7	2.2	

○外国人観光客の交通機関及び案内標識のわかりやすさの満足度 について

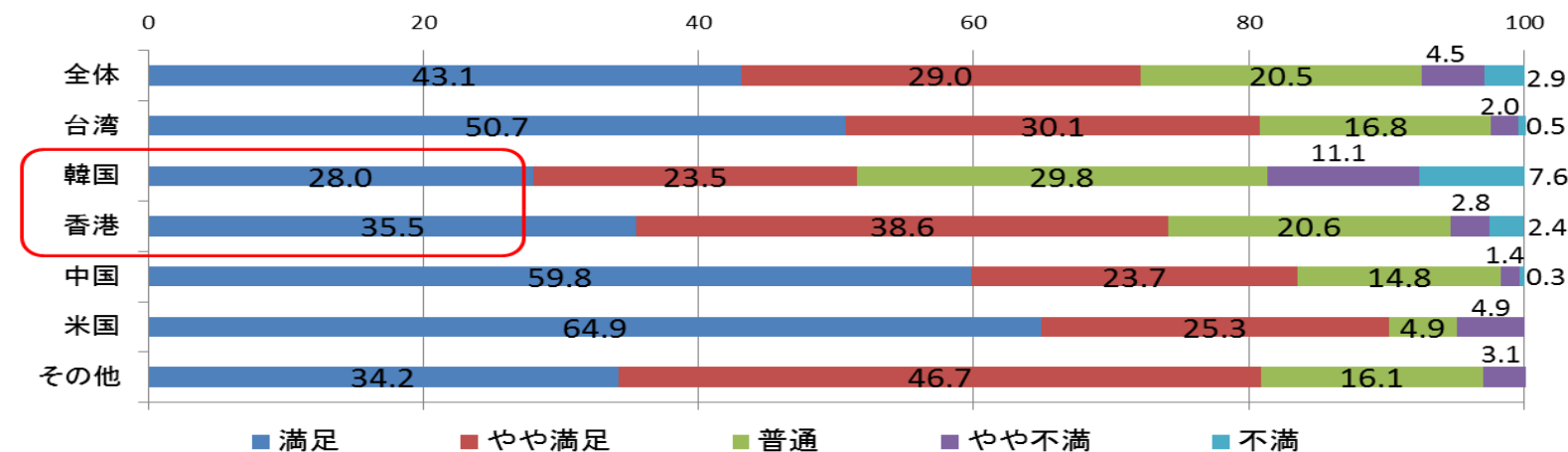
(平成27年度、空路)

- ・交通機関については、米国(71.9%)、台湾(63.3%)、中国(61.3%)の順に満足度が高く、韓国(42.4%)が低い。
- ・案内標識のわかりやすさについては、韓国(28.0%)と香港(35.5%)で満足度が低い。

図表 1-36 交通機関の満足度(国籍・地域別)



図表 1-40 案内標識のわかりやすさの満足度(国籍・地域別)

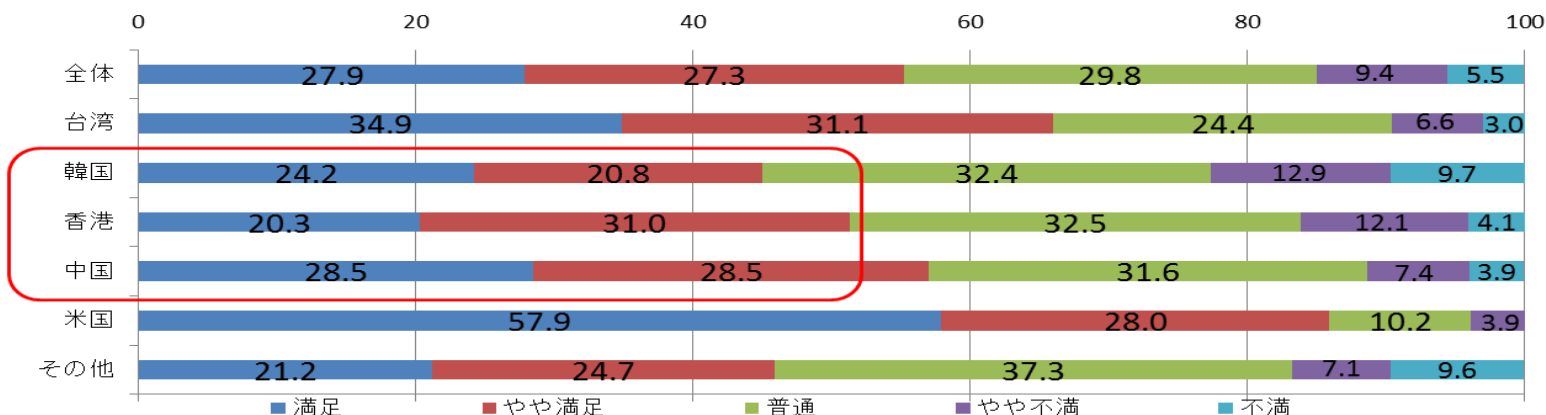


○外国人観光客の「外国語対応能力の満足度」については、米国以外のすべての国籍・地域では満足度が低い傾向にあり、特に、香港(20.3%)、韓国(24.2%)の「満足」の割合が低い。

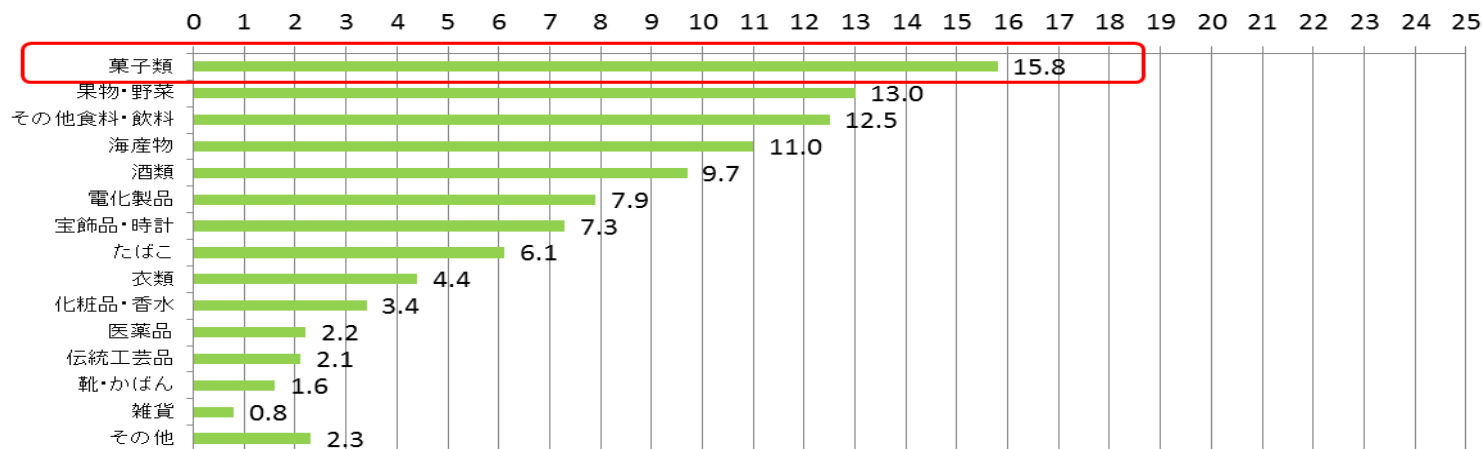
○外国人観光客にとって「最も満足した商品」については、全体では「菓子類」が最も多く、次いで「果物・野菜」、「その他食料・飲料」と続いている。

(平成27年度)

図表 1-39 外国語対応能力の満足度(国籍・地域別)



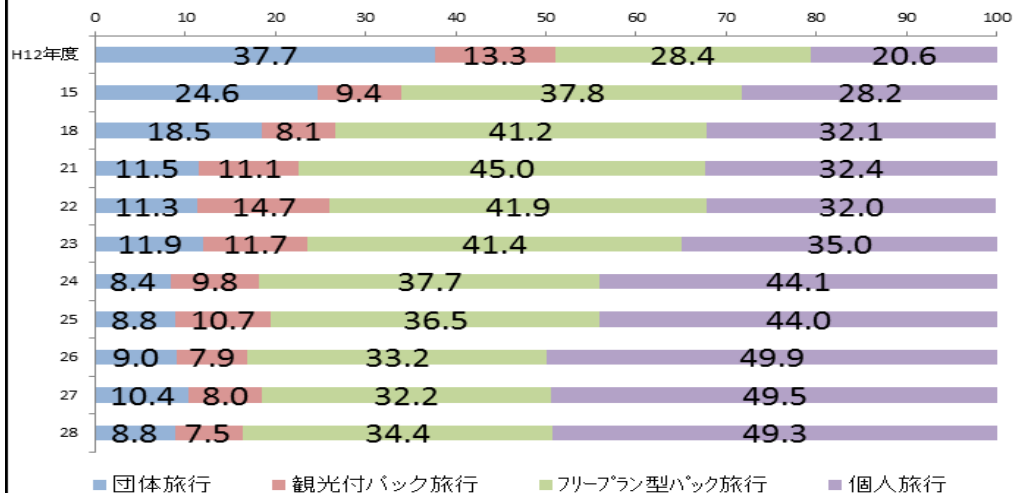
図表 1-5 外国人観光客の滞在中の消費活動(最も満足した商品)



④観光スタイルの変化、目的等(国内客)

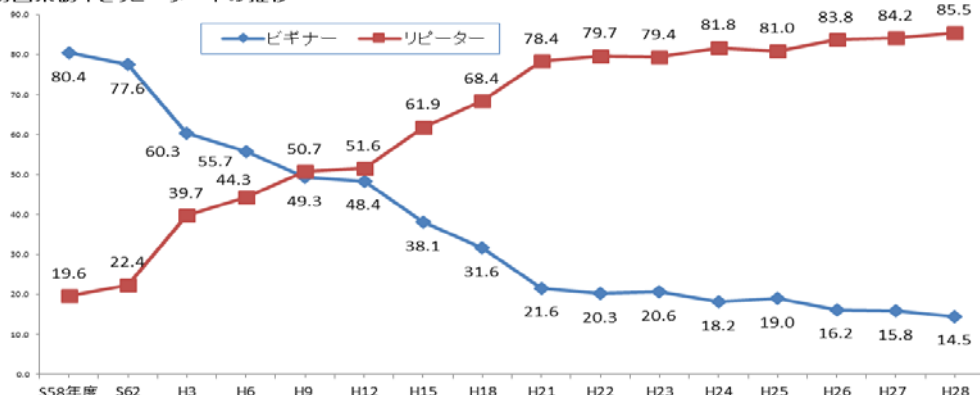
- ・年々、団体旅行が減少し、個人旅行が増加している。
- ・旅行内容の消費者ニーズは多様なニーズがある。

旅行形態の推移



出所：沖縄県「観光統計実態調査」(H12年度、15年度、18年度は航空機内で行った大規模調査による数値)

初回来訪率とリピーター率の推移



※出所：沖縄県「観光統計実態調査」

※H12年度H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値

旅行内容別推移

(単位：%)							
活動内容(複数回答)	H12年度	H15年度	H18年度	H21年度	H24年度	H27年度	H28年度
観光地めぐり	73.7	72.1	68.4	61.3	60.1	56.0	56.8
保養・休養	22.2	17.6	16.8	26.1	25.3	28.1	31.1
海水浴・マリンスポーツ	45.6	34.1	27.4	25.2	24.5	28.0	28.4
ダイビング	9.3	8.7	7.9	8.7	9.5	7.6	7.8
ゴルフ	4.8	4.1	4.4	3.8	3.9	4.7	4.3
釣り	2.9	1.7	1.9	1.2	1.5	1.7	2.0
スパ・エステ	-	-	3.8	3.4	3.6	3.5	2.8
スポーツ大会等	1.8	1.5	1.7	1.5	0.8	1.5	1.1
エコツアー	-	1.4	1.4	1.8	2.3	1.5	1.7
伝統工芸・芸能体験	-	-	-	6.1	6.2	7.3	6.2
ショッピング	33	44.4	33.4	26.7	23.9	22.7	28.8
戦跡地参拝	19.8	16.3	12.2	9.9	9.5	10.2	8.0
沖縄料理を楽しむ	-	-	38.8	38.1	39.1	41.9	41.4
イベント・伝統行事等	4	4	4.6	3.3	4.6	4.5	5.0
新婚旅行	-	1.3	1.5	1.6	1.3	1.5	1.1
ウエディング	-	1.3	2.1	2.4	2	2.9	2.1
帰省・親戚等訪問	11	6.3	6.6	4.6	5.5	4.8	4.9
会議・研修	9.8	6.6	6.4	7.2	6.8	6.2	11.2
仕事	8	11	11.6	11.1	10.1	12.2	15.6
プロスポーツキャンプ見学	-	-	-	-	-	3.6	2.8
その他	3.9	4.9	3.6	5.7	7.5	4.5	4.4

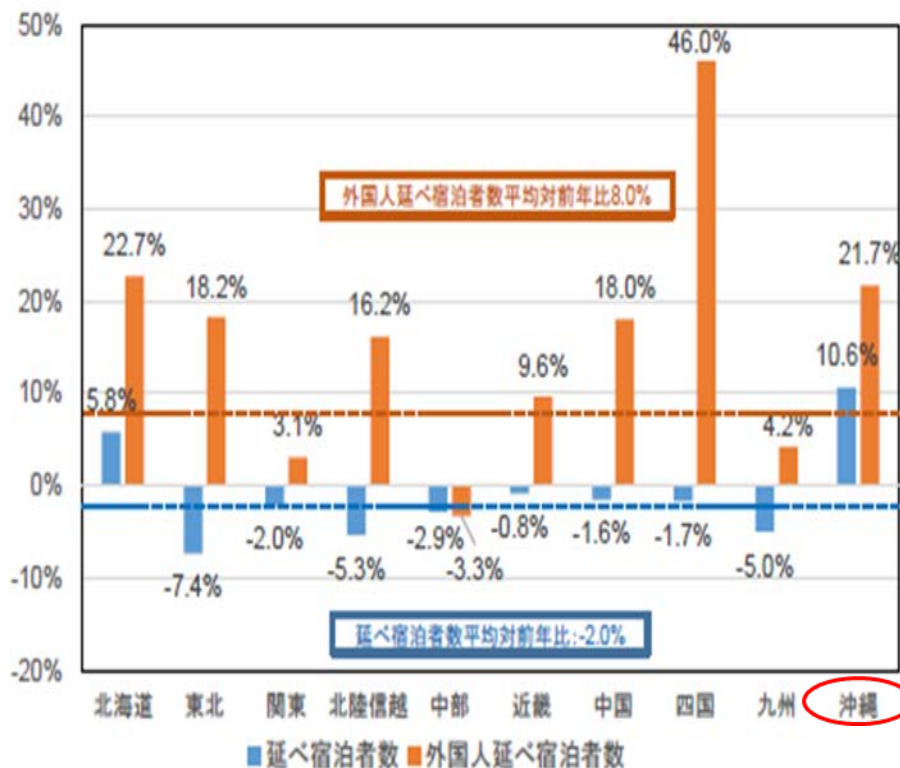
出所：沖縄県「観光統計実態調査」(H12年度、15年度、18年度は航空機内で行った大規模調査による数値)

(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向①

- 地方ブロック別延べ宿泊者数は、北海道及び沖縄の2地方で増加した。
- 地方ブロック別外国人延べ宿泊者数は、10地方のうち9地方で伸びており、特に四国地方の伸び率が高かった。
- 国籍・地域別構成比では、中国からの宿泊者が三大都市圏等4地方で、韓国からの宿泊者が九州等2地方で、台湾からの宿泊者が東北等4地方で高い比率を占めた。

(平成28年)

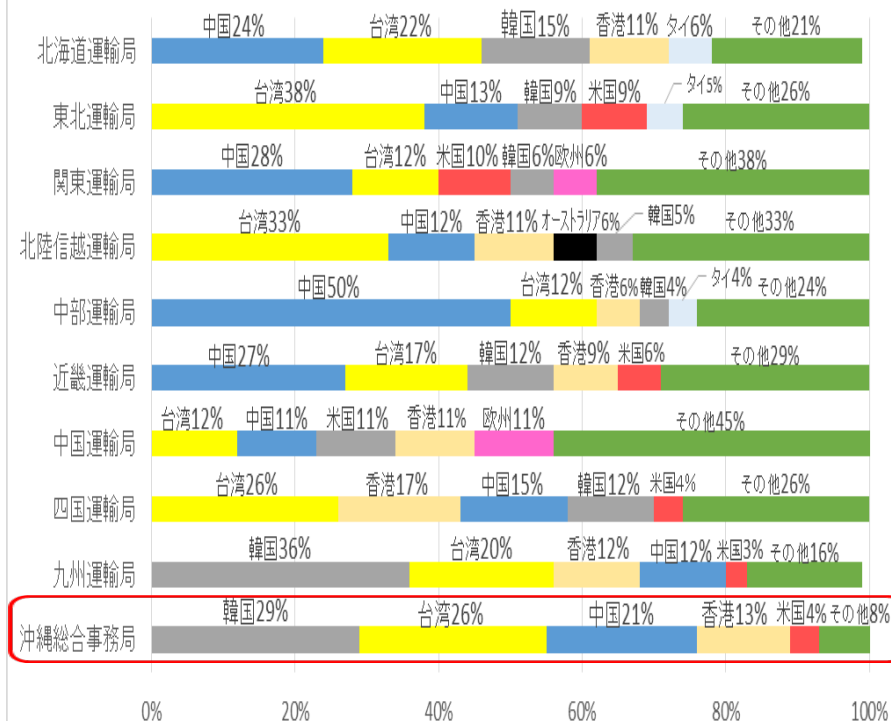
(図)延べ宿泊者、外国人延べ宿泊者数の
地方ブロック別対前年比(2016年(平成28年))



資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」

注1:2015年(平成27年)の確定値と2016年(平成28年)の速報値を比較した。

地方ブロック別外国人延べ宿泊客の
国・地域別構成比(2016年(平成28年))



注1:欧州は英国・フランス・ドイツの3カ国

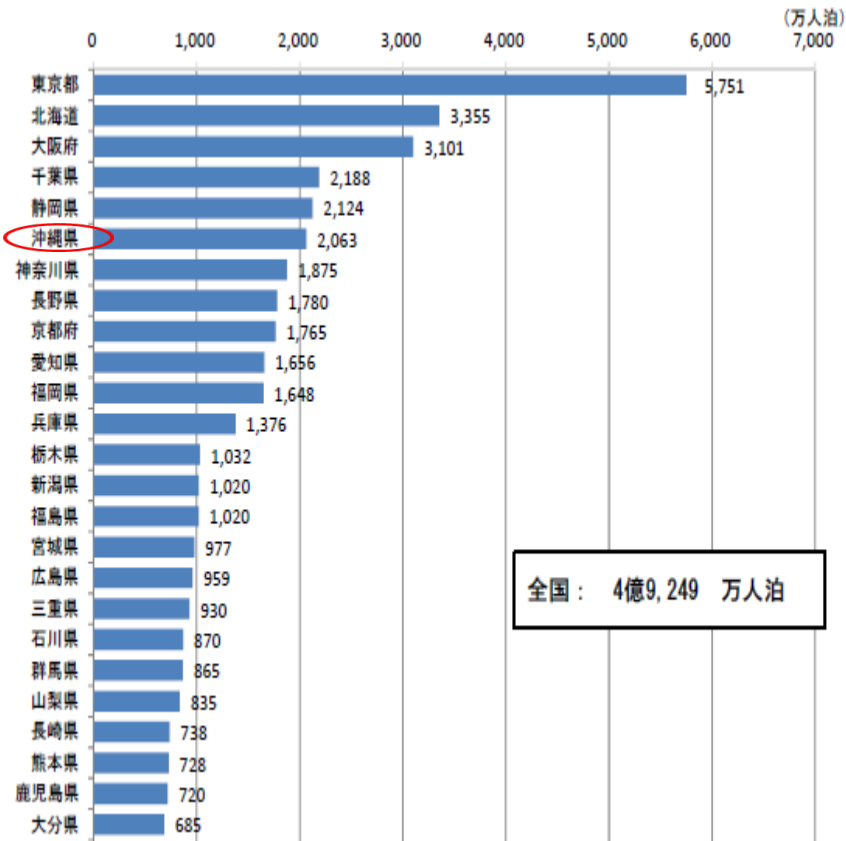
注2:速報値

出所:観光庁「平成29年版観光白書」

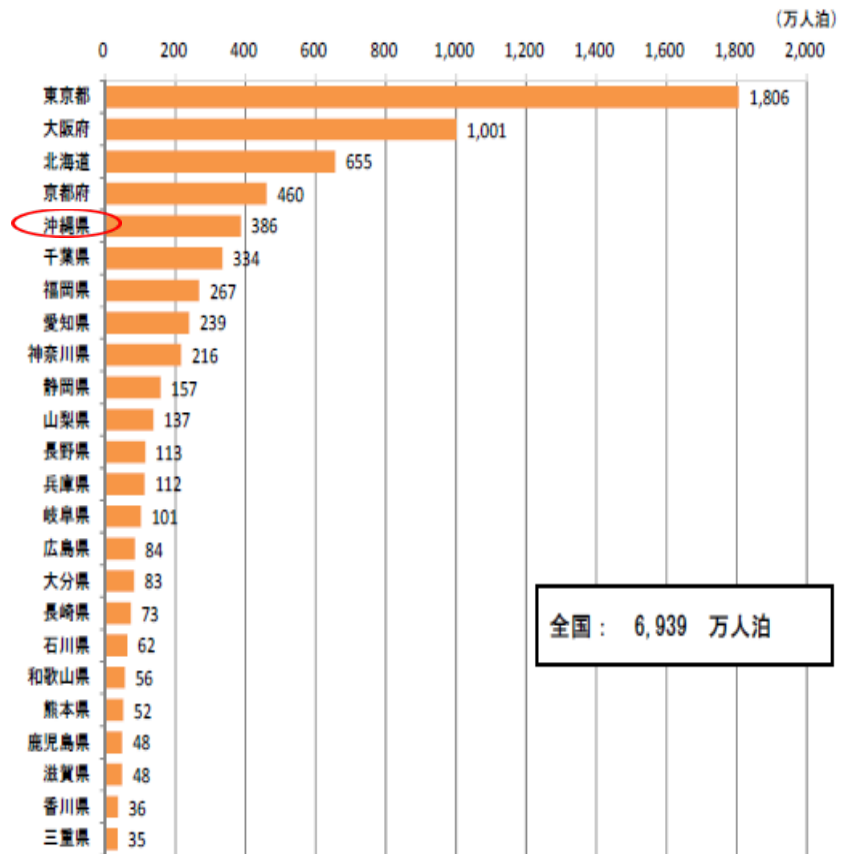
(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向②

- ・全国の延べ宿泊者数は4億9,249万人泊、うち外国人延べ宿泊者数は6,939万人泊(全体に占める割合は14.1%)
- ・沖縄県の延べ宿泊者数は2,063万人泊、うち外国人延べ宿泊者数は386万人泊(全体に占める割合は18.7%で、全国より高い。)
- ・都道府県別で、沖縄県は延べ宿泊者数が全国で6位、外国人延べ宿泊者数が5位 (平成28年)

都道府県別延べ宿泊者数(平成28年(確定値、上位25県))



都道府県別外国人延べ宿泊者数(平成28年(確定値、上位25県))



(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向③

○消費税免税店の拡大(平成29年4月1日時点)

- ・全国では40,532店となり、半年間で1,879店(4.9%)増加
- ・沖縄県では849店となり、半年間で43店(5.3%)増加

消費税免税店(輸出物品販売場)の都道府県別分布(2017年4月1日現在)



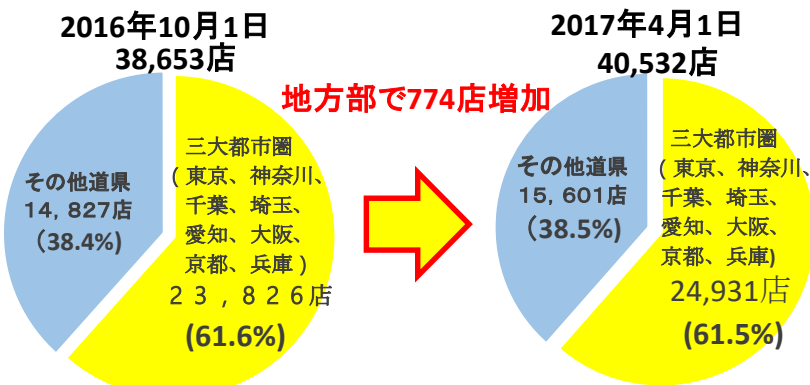
	店舗数		増加数	対前回比率
	2016.10.1	2017.4.1		
札幌国税局	2,051	2,247	196	109.6%
北海道	2,051	2,247	196	109.6%
仙台国税局	1,366	1,465	99	107.2%
青森	164	171	7	104.3%
岩手	122	128	6	104.9%
宮城	730	766	36	104.9%
秋田	86	95	9	110.5%
山形	113	129	16	114.2%
福島	151	176	25	116.6%
関東信越国税局	2,756	2,824	68	102.5%
茨城	369	386	17	104.6%
栃木	316	319	3	100.9%
群馬	197	198	1	100.5%
埼玉	1,179	1,193	14	101.2%
新潟	256	274	18	107.0%
長野	439	454	15	103.4%
東京国税局	14,283	15,029	746	105.2%
千葉	2,025	2,088	63	103.1%
東京	9,811	10,375	564	105.7%
神奈川	2,259	2,360	101	104.5%
山梨	188	206	18	109.6%

	店舗数		増加数	対前回比率
	2016.10.1	2017.4.1		
金沢国税局	731	808	77	110.5%
富山	332	333	1	100.3%
石川	344	416	72	120.9%
福井	55	59	4	107.3%
名古屋国税局	3,043	3,245	202	106.6%
岐阜	322	336	14	104.3%
静岡	857	877	20	102.3%
愛知	1,447	1,609	162	111.2%
三重	417	423	6	101.4%
大阪国税局	7,810	8,039	229	102.9%
滋賀	313	323	10	103.2%
京都	1,434	1,474	40	102.8%
大阪	4,328	4,420	92	102.1%
兵庫	1,343	1,412	69	105.1%
奈良	208	221	13	106.3%
和歌山	184	189	5	102.7%
広島国税局	1,292	1,362	70	105.4%
鳥取	95	102	7	107.4%
島根	62	65	3	104.3%
岡山	391	408	17	104.3%
広島	621	654	33	105.3%
山口	123	133	10	108.1%

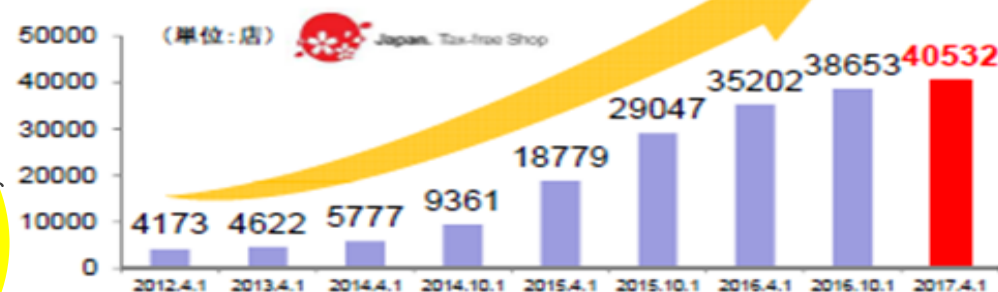
	店舗数		増加数	対前回比率
	2016.10.1	2017.4.1		
高松国税局	539	560	21	103.9%
徳島	62	64	2	103.2%
香川	199	205	6	103.0%
愛媛	170	178	8	104.7%
高知	108	113	5	104.6%
福岡国税局	2,798	2,839	41	101.5%
福岡	2,194	2,218	24	101.1%
佐賀	192	205	13	106.8%
長崎	412	416	4	101.0%
熊本国税局	1,178	1,265	87	107.4%
熊本	351	372	21	106.0%
大分	308	348	40	113.0%
宮崎	162	165	3	101.9%
鹿児島	357	380	23	106.4%
沖縄国税事務所	806	849	43	105.3%
沖縄	806	849	43	105.3%
合計	38,653	40,532	1,879	104.9%

2017年4月1日現在: 国税局所管地域別(国税庁集計)

三大都市圏と地方部の免税店数



免税店数の推移



(6)国内地域と比較した沖縄観光の動向④

○国際会議開催統計

- ・2016年に日本で開催された国際会議は対前年比55件増で過去最高の410件となり、中国と同数で世界7位、アジア・オセアニア・中近東地域で1位となった。
- ・沖縄県で開催された国際会議は13件で、前年と同数であった。

2016国際会議開催件数(上位10位)

国名	2016年		2015年	
	順位	件数	順位	件数
アメリカ	1位	934	1位	925
ドイツ	2位	689	2位	667
イギリス	3位	582	3位	582
フランス	4位	545	5位	522
スペイン	5位	533	4位	572
イタリア	6位	468	6位	504
日本	7位	410	7位	355
中国	7位	410	8位	333
オランダ	9位	368	8位	333
カナダ	10位	287	10位	308

日本の都市別国際会議開催件数						
都市名	2016年			2015年		
	順位	件数	世界順	順位	件数	世界順
東京	1位	95	21	1位	80	28位
京都	2位	58	44	2位	45	57位
大阪	3位	25	100	4位	23	115位
福岡	4位	23	111	3位	30	85位
横浜	5位	21	120	5位	22	117位
神戸	5位	21	120	8位	13	191位
札幌	7位	17	152	6位	18	139位
名古屋	8位	16	160	7位	14	182位
奈良	9位	15	169	12位	8	276位
仙台	10位	13	203	10位	9	254位
沖縄県	—	13	—	8位	13	191位
広島	11位	9	279	16位	4	—
金沢	12位	8	301	14位	6	335位
北九州	13位	7	324	15位	5	373位
つくば	14位	6	357	10位	9	254位

※沖縄県分は、2015年の統計まで県全体の件数により公表、順位付けされていたが、2016年の統計から市町村別等の件数へと変更されたため、2016年の順位は「—」としている(13件の内訳:那覇市4、恩納村4、宜野湾市3、名護市1、沖縄市1)。

※東京は23区内の件数。